



## 目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	7～9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

### 特殊車輛紹介



#### ETFE 特性表

物理的性質	
比重	1.73～1.75
融点	265～270℃
機械的性質	
引張強度 23℃	410～470kg/cm <sup>2</sup>
伸度 23℃	420～440%
引張弾性率	5～8×10 <sup>3</sup> kg/cm <sup>2</sup>
ロックウエル硬度	R-50
摩擦係数 (対ステンレス)	0.20
熱的性質	
線膨張係数	9.4×10 <sup>-5</sup> ℃ <sup>-1</sup>
燃焼性	不燃
化学的性質	
耐薬品性	優

#### フランジ

サイズ
40A / 50A / 65A / 75A (JIS5K JIS10K)

自然、社会との調和をめざす

## ごあいさつ

1970年頃の日本の製造業はまさに量産の時代でした。関西でもワイヤロープや毛布、タオル等の生産量はピークを迎えており、その製造過程で使用した酸やアルカリ廃液は未処理のまま河川に放流され、赤潮や魚介類の死滅などの害が発生しておりました。

その頃に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正が行われ、産業廃棄物処理委託基準が制定されて、我社の活躍の場が生まれました。収集運搬業者の許認可制度、処分業者の許認可制度です。逸早く許認可を得た我社は、単なる収集運搬業者ではなく、廃棄物の再生利用を模索し、廃塩酸から塩化第二鉄、廃硫酸からポリ硫酸第二鉄、アルミ系廃液から硫酸バンド、ポリ塩化アルミニウム(PAC)へと、自らも再生利用して凝集剤を製造しながら、さらに余剰する廃棄物を他の化学会社に原料として供給を行ってまいりました。

また、クロム酸老化液を無水クロム酸の原料に、塩化銅廃液は亜酸化銅の原料にと、再資源化を委託しながら、廃棄物の有効活用に努めてまいりました。

工場は「内から外が見えない」ので、発生する廃棄物の有効利用や再生活用等の用途も見え難い。「いかに廃棄物を有効利用に繋げるか」を代行して模索するのが我社の業務であり、社員の営業指針となっております。

そのためには、あらゆる業種の製造業を訪れて、知識を豊富にし、その会社が利用可能な廃棄物をお薦めする事から始まります。廃棄物のサンプル提出や実機テスト、メリットとデメリットの検討、その結果、有効利用が決まれば排出事業者との業務提携、契約を代理代行致します。

廃棄物は年々減量化を行い、処分費用も減らさねばなりません。製品に至るまでに如何ほど廃棄物を発生させたか、またどのように廃棄物を処分したか、が問われる時代となりました。CO2の削減問題もますます厳しくなり、対策が急がれています。我社はこのような環境問題に真剣に取り組み、

企業の皆様のお役に立てるように努力して参りたく存じます。  
何卒、末永くご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。 敬具

## 環境経営方針

### <環境経営理念>

化学薬品の販売、輸送、処理コンサルタントを通じて、効果的な薬品使用、効率的な輸送体制、廃液の有効利用または減溶処理方法の提案を行うことにより、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

産業活動による地球環境に与える影響を最小限にとどめられる様に、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

### <環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 事業所の省エネ及び車両のエコドライブに努めます。
3. 自社の廃棄物の削減や受託廃棄物の再資源化に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 洗浄剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
6. 顧客満足度の向上、売上の向上に努めます。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
8. 上記、環境方針を達成するために全従業員へ周知し、力量向上に努めます。



制定日：2018年6月14日

改定日：2019年7月12日

代表取締役 平尾 保

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



## □組織の概要

更新日：2022年7月1日

- (1) 名称及び代表者名  
平成ハイテック株式会社  
代表取締役会長 平尾 保
- (2) 所在地  
本 社 大阪府大阪市西区靱本町3丁目10番33号  
住之江倉庫 大阪府大阪市住之江区平林北2丁目4番地1号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
責任者 平尾 吉隆 TEL：06-6445-2424  
担当者 國枝 亨祐 TEL：06-6445-2424
- (4) 事業内容  
化学工業薬品製造販売業/産業廃棄物収集運搬業
- (5) 事業の規模  
法人設立 1974年6月5日  
資本金 3,600 万円  
売上高 107,600 万円

	本社	住之江倉庫	合計
従業員	9 名	13 名	22 名
延べ床面積	608 m <sup>2</sup>	1468 m <sup>2</sup>	2076 m <sup>2</sup>

従業員数は2021年4月1日現在

受託した産業廃棄物の収集運搬量

収集運搬量 産廃廃棄物	3,064 t
収集運搬量 特別産業廃棄物	18,742 t

車種	台数
10tタンクローリー	6 台
12tタンクローリー	6 台
17tタンクローリー	1 台
4t平ボディ車	1 台
4tモービルジェット	1 台
合計	14 台

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 平成ハイテック株式会社  
対象事業所： 本社、住之江倉庫  
対象事業活動： 化学工業薬品販売業、産業廃棄物収集運搬業

## □事業の紹介

化学工業薬品製造・販売



特殊清掃・化学プラントメンテナンス

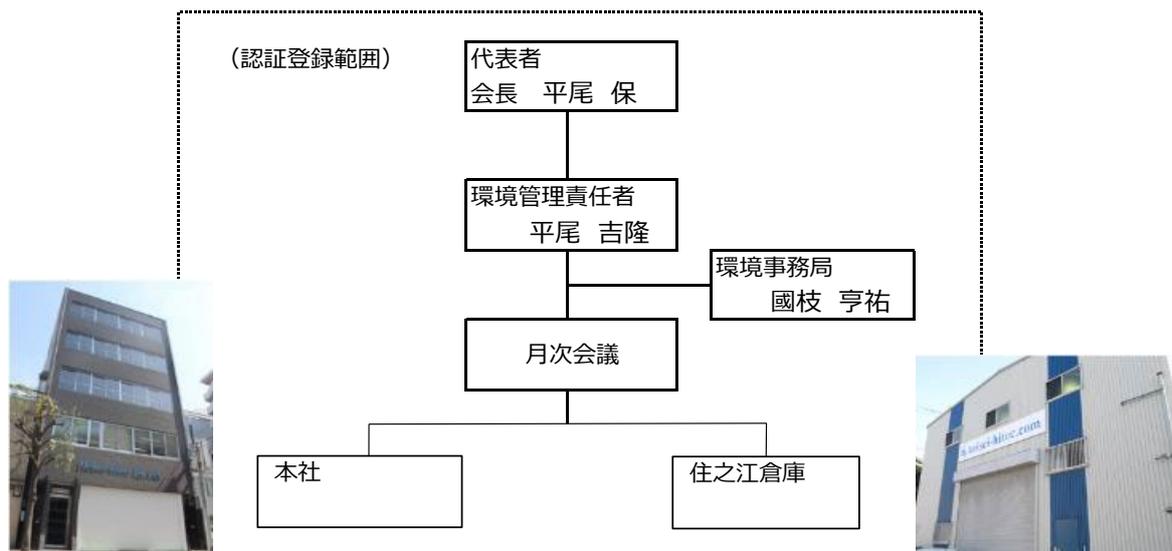


化学工業薬品輸送、産業廃棄物収集・運搬



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2022年7月1日



	役割・責任・権限
代表者（会長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、月次会議の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
月次会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営計画の審議</li> <li>・環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

□産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集・運搬業許可証一覧

【許可内容】							【許可内容】								
政令都市	許可区分	許可番号	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃油	廃プラ	政令都市	許可区分	許可番号	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃油	廃プラ
大阪府	特別管理産業廃棄物	第02750003200号	○	○	○	○	○	広島県	特別管理産業廃棄物	第3450003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第02700003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第03400003200号	○	○	○	○	○
大阪市	特別管理産業廃棄物	第6650003200号	○	○	○	○	○	広島市	特別管理産業廃棄物	第7350003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第6600003200号	○	○	○	○	○		福山市	特別管理産業廃棄物	第09153003200号	○	○	○	○
東大阪市	特別管理産業廃棄物	第6850003200号	○	○	○	○	○	呉市		特別管理産業廃棄物	第07452003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第6750003200号	○	○	○	○	○		山口県	特別管理産業廃棄物	第03550003200号	○	○	○	○
堺市	特別管理産業廃棄物	第0670003200号	○	○	○	○	○	産業廃棄物		第03500003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第02851003200号	○	○	○	○	○	徳島県	特別管理産業廃棄物	第3650003200号	○	○	○	○	○
兵庫県	特別管理産業廃棄物	第02801003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第03759003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第6950003200号	○	○	○	○	○	北九州市	特別管理産業廃棄物	第07650003200号	○	○	○	○	○
神戸市	特別管理産業廃棄物	第6900003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第7600003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第07150003200号	○	○	○	○	○	愛知県	特別管理産業廃棄物	第02350003200号	○	○	○	○	○
尼崎市	特別管理産業廃棄物	第07100003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第02300003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第9953003200号	○	○	○	○	○	名古屋	特別管理産業廃棄物	第06450003200号	○	○	○	○	○
西宮市	特別管理産業廃棄物	第07053003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第6400003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第07003003200号	○	○	○	○	○	四崎市	特別管理産業廃棄物	第10550003200号	○	○	○	○	○
京都府	特別管理産業廃棄物	第02650003200号	○	○	○	○	○		豊田市	特別管理産業廃棄物	第09050003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第02600003200号	○	○	○	○	○	岐阜県		特別管理産業廃棄物	第02150003200号	○	○	○	○
京都市	特別管理産業廃棄物	第06551003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第2100003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第6500003200号	○	○	○	○	○	静岡県	特別管理産業廃棄物	第02251003200号	○	○	○	○	○
奈良県	特別管理産業廃棄物	第02950003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第06353003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第10252003200号	○	○	○	○	○	福井県	特別管理産業廃棄物	第1857003200号	○	○	○	○	○
滋賀県	特別管理産業廃棄物	第02551003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第1807003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第02501003200号	○	○	○	○	○	富山県	特別管理産業廃棄物	第01656003200号	○	○	○	○	○
和歌山県	特別管理産業廃棄物	第03050003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第2059003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第07250003200号	○	○	○	○	○	新潟県	特別管理産業廃棄物	第1559003200号	○	○	○	○	○
和歌山市	特別管理産業廃棄物	第07200003200号	○	○	○	○	○		群馬県	特別管理産業廃棄物	第1050003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第02450003200号	○	○	○	○	○	茨城県		特別管理産業廃棄物	第00851003200号	○	○	○	○
三重県	特別管理産業廃棄物	第2400003200号	○	○	○	○	○		福島県	特別管理産業廃棄物	第0757003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第3351003200号	○	○	○	○	○	東京都		特別管理産業廃棄物	第13-57-003200号	○	○	○	○
岡山県	特別管理産業廃棄物	第3301003200号	○	○	○	○	○		神奈川県	特別管理産業廃棄物	第1453003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第08350003200号	○	○	○	○	○	横浜市		特別管理産業廃棄物	第06550003200号	○	○	○	○
岡山市	特別管理産業廃棄物	第08300003200号	○	○	○	○	○		川崎市	特別管理産業廃棄物	第06750003200号	○	○	○	○
	産業廃棄物	第10050003200号	○	○	○	○	○	埼玉県		特別管理産業廃棄物	第01152003200号	○	○	○	○
倉敷市	特別管理産業廃棄物	第10000003200号	○	○	○	○	○		産業廃棄物	第1250003200号	○	○	○	○	○
	産業廃棄物	第10000003200号	○	○	○	○	○								

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,042,338	910,812	986,211
電力	kg-CO <sub>2</sub>	8,256	10,854	11,299
化石燃料(合計)	kg-CO <sub>2</sub>	1,034,082	899,958	974,912
ガソリン	kg-CO <sub>2</sub>	21,630	19,830	19,138
軽油	kg-CO <sub>2</sub>	1,012,452	880,128	955,236
灯油	kg-CO <sub>2</sub>	0	0	269
総水使用量	m <sup>3</sup>	751	747	1,030
一般廃棄物排出量	kg	416	345	248
普通産廃排出量	kg	7,228	9,380	2,960
特管産廃排出量	kg	11,747	8,250	0

\*電力の二酸化炭素排出係数は関西電力の2016年度の調整後排出係数の0.493を使用した。

□環境経営目標及びその実績

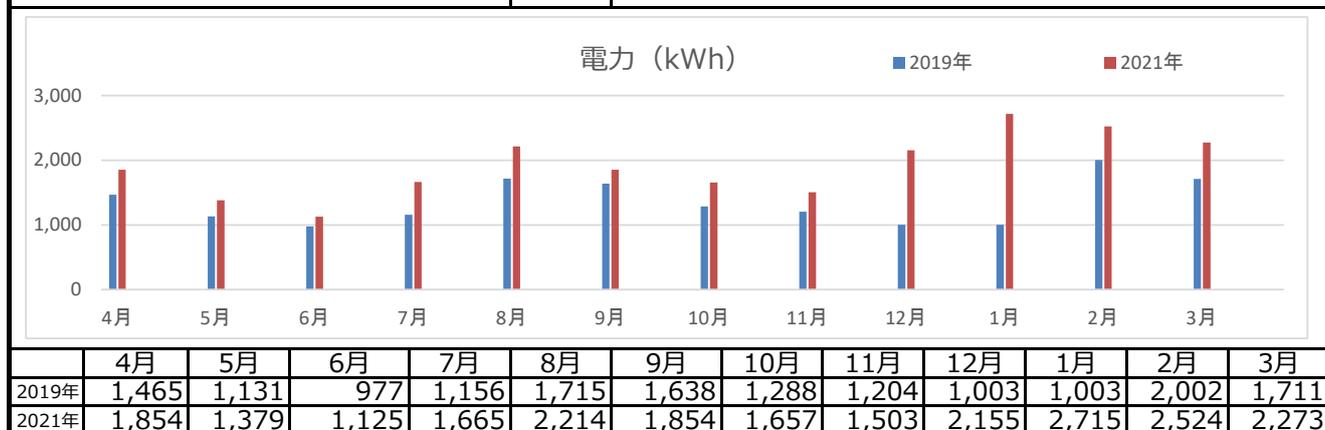
項目	年度	基準値 (基準年)	2021年		評価	2022年 (目標)	2023年 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	8,256	8,091	11,299	×	7,926	7,843
	基準年度比	2019年	98%	137%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	1,034,082	1,013,400	974,374	○	1,003,059	992,718
	基準年度比	2019年	98%	94%		97%	96%
一般廃棄物の削減	kg	416	408	248	○	408	399
	基準年度比	2019年	98%	60%		98%	96%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	751	736	1,030	×	728	721
	基準年度比	2019年	98%	137%		97%	96%
危険に配慮した収集運搬			行動目標 (次項による)				



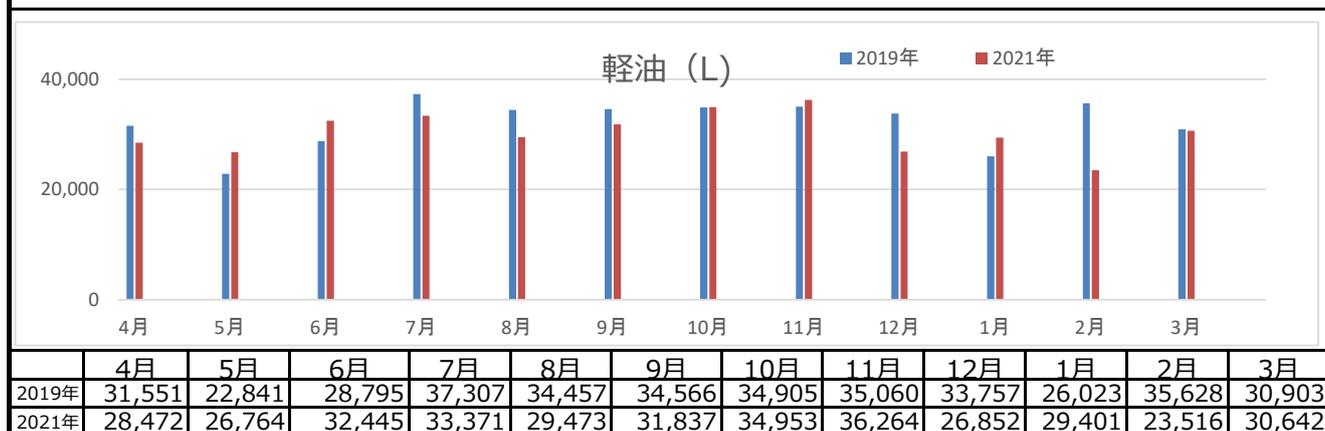
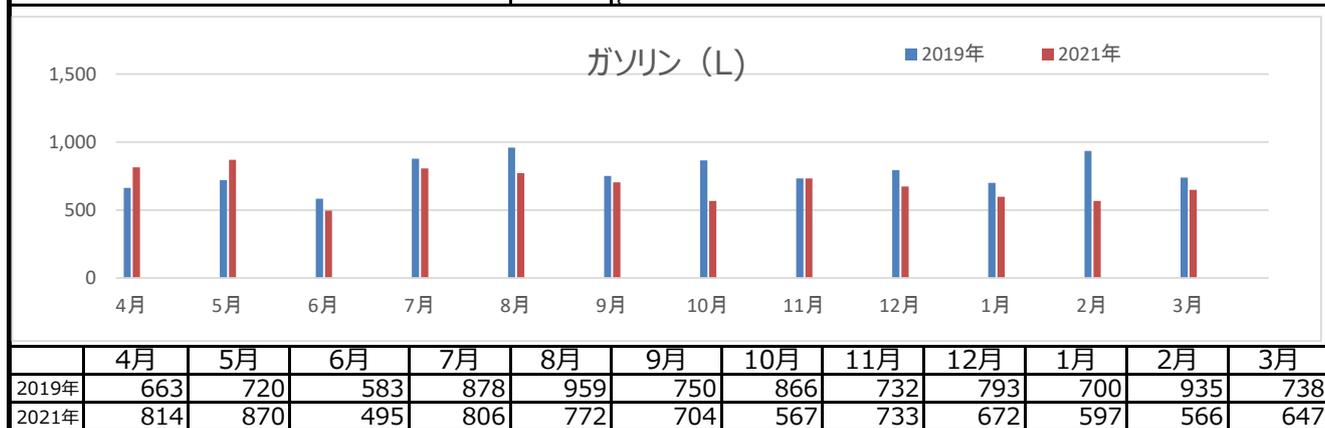
□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

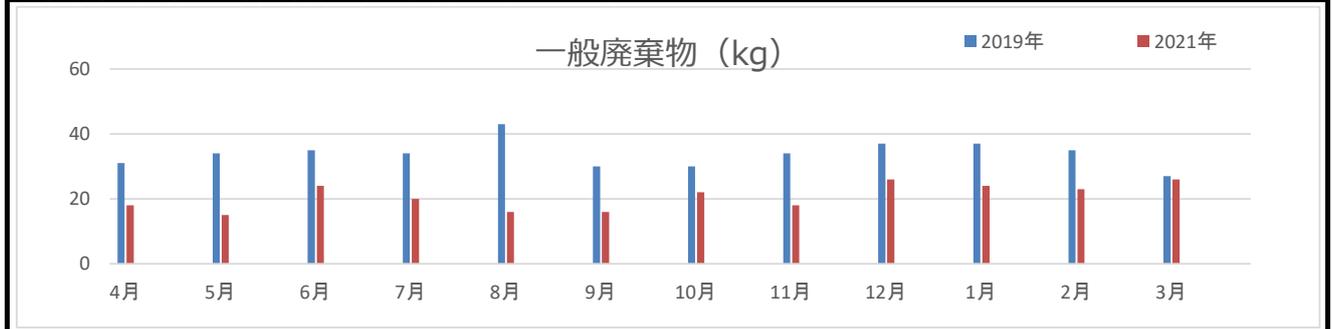
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	前年に引き続き目標を大幅に超えてしまっている。
・空調温度の適正化（上げすぎ下げすぎの確認）	×	ひざ掛けや扇風機などエアコン以外で体温調整を図り、電力使用量の削減に努めたい。
・不要照明の消灯	×	
・パソコン、北°-機等のOA機器は、省電力設定にしている	○	基準年にリモートワークを行っていたため、一度基準を見直すことも考えたい。



自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	遠方への営業活動を効率化させてガソリンを削減できている。
・効率的なルートで配送・営業	○	軽油に関しては基準年より稼働が大幅に落ちた時期があり、不本意ながら目標達成となった。
・エリア別営業ルートの見直し	○	
・ECOモード走行を多用する	○	稼働が戻った後も継続できるよう、併用便を多用する等して削減に努めている。

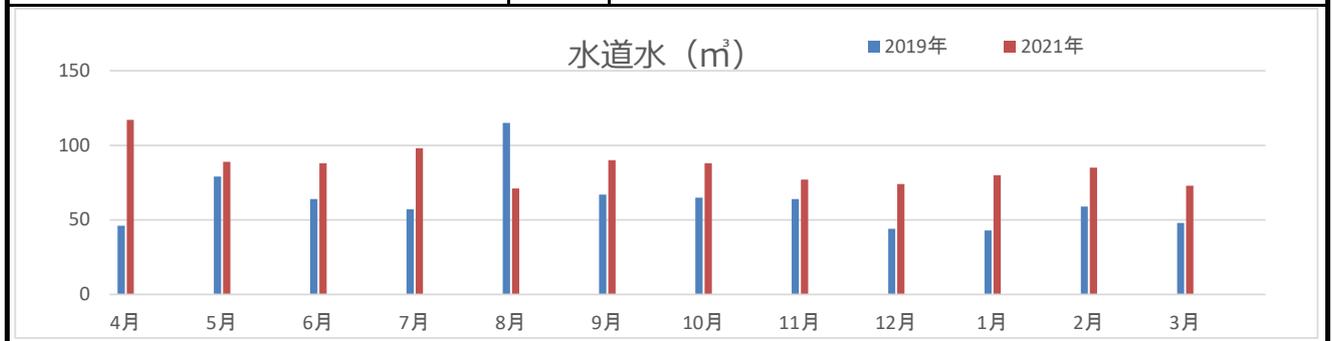


一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	分別の徹底、裏紙使用の意識が浸透しリモートワーク時よりも廃棄物量を減らせている。 継続して減らしていけるように従業員全員への意識付けを行っていく。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙の緩衝材へのリサイクル化	○	
・裏紙利用による紙使用数の削減	○	
・ペットボトルキャップの回収と寄付	○	
・インスタントコーヒー(ドルチェグスト)の豆殻の肥料	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	31	34	35	34	43	30	30	34	37	37	35	27
2021年	18	15	24	20	16	16	22	18	26	24	23	26

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	水を多く使用する仕事が多かったため、倉庫での水使用量が大幅増となった。 本社での使用量は減らせているため、引き続き意識を高く保てるよう活動していく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	46	79	64	57	115	67	65	64	44	43	59	48
2021年	117	89	88	98	71	90	88	77	74	80	85	73

危険に配慮して収集運搬：年間を通して無事故無違反でした。新たにデジタコを導入し、更なる予防に努める予定。  
 課題を解決しチャンスを活かす取組み：CSLの向上を課題に、全社員にて現場での振る舞いや5Sの強化実施。  
 SDGsへの取組み：社外交流を通して小さなことから出来ること、考えることを実施、まずは全社員にSDGsについて周知が出来た。

**□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無**

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物の処理委託
許可取得都府県条例（流入車規制）	収集運搬車
フロン排出抑制法	業務用空調機
毒物劇物取扱法	産業廃棄物収集運搬
水質汚濁防止法	漏洩時の報告
家電リサイクル法	廃棄時の適正処理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

**□外部からの環境上の苦情と要望**

外部からの環境上の苦情と要望はありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 客先にて薬液漏洩	
■実施日： 令和3年 9月26日(日) 8:00~10:00	■実施場所 平成ハイテック株式会社 住之江倉庫
■参加者： 田中、國枝、佐藤、石河、梶村、柿坪、山内、細川(後日、運輸事業部員にフォローアップ)	■実施内容： 塩化第二鉄溶液を客先にて送液中にフランジ接続部分から漏液
■評価： 漏洩事故発生時の対応手順の確認。 参加者で手順を確認し、参加できなかった部員に関しては、撮影した写真を用いてのフォローアップ教育を行うことで運輸事業部全体での手順の共有ができた。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年7月1日

エコアクション21の取得、環境活動の実践を経て社内における環境経営の基盤、文化の醸成を感じる一年となりました。

社員一同が我々の環境活動を意識した行動にて、各々が小さな環境活動家として頑張っています。昨年に続き本年もコロナ禍であり、様々な活動を自粛しなければならず、制限の多い中での活動でしたが、各人の心に環境活動の基本があり、コロナ禍での個人裁量が多い中でも小さな活動を続けていくことが出来ております。各々が自分で考え、自分で出来ることをやっていくことが、意識改革の目標であり、うまくサイクルが回っていると感じます。前年の目標とした "Sustaining phase" として、引き続き活動を継続することを目標とします。さて、平成ハイテック株式会社は、令和4年6月1日をもちまして、創業50周年を迎える運びとなりました。次の50年を目指して、環境経営を基にSDGsに取組み、100年企業を目指します。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

代表取締役会長 平尾 保

□これまでの環境活動の紹介

インスタントコーヒーの豆殻の再利用、雨水利用による屋上菜園による断熱化

